

今週（9月9日から9月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コール市場は、特殊要因を除くと0.225～0.228%での出会いが中心となり、前週対比で概ね横ばい圏での推移となった。

O/N物の加重平均レートは、12日(木)に試し取りが行われた影響により0.229%に上昇したものの、それ以外の日では0.227～0.228%、出来高は週を通して3兆円台前半での推移と、落ち着いたマーケットとなった。

ターム物は、証券業態の調達を中心に0.3%台での出会いが多く見られたなか、運用ニーズの強い一部の先からは0.2%台での運用も散見された。

日銀当座預金残高は、週前半は短国の償還超過や国債買入オペなどにより544兆円程度まで増加したが、11日(水)の5年債発行を受けて541兆円程度に減少した。その後は再び国債買入オペによる増加が見られた事で、概ね542兆円前後での推移となった。

●レポ市場

今週のGC T/N物の出会い水準は、概ね0.20～0.25%程度での推移となった。
SCは、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3M物と6M物の入札が強い結果となり、全ゾーン堅調に推移した。

9日(月)に行われた6M物入札は強い結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。13日(金)に行われた3M物入札も強い結果となったものの、結果発表後のセカンダリーマーケットでは閑散で特段の出会いは見られなかった。

●CP市場

今週のC P市場は、鉄鋼、石油・石炭、電気機器など複数の業態で大型発行が実施された。

週間償還総額3兆円程度に対し、発行総額は4兆円程度となるなか、市場残高は、概ね24兆円台での推移となった。

発行レートは、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/9（月）	36,215.75	0.889	142.74	0.227	0.236	5,437,600
9/10（火）	36,159.16	0.890	143.48	0.228	0.230	5,442,800
9/11（水）	35,619.77	0.850	141.00	0.227	0.235	5,412,100
9/12（木）	36,833.27	0.860	142.76	0.229	0.207	5,425,000
9/13（金）	36,581.76	0.840	141.50	0.227	0.243	5,418,400

来週（9月17日から9月20日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/16 (月)	敬老の日				
9/17 (火)	7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				米FOMC(1日目) 8月の米小売売上高 8月の米鉱工業生産・設備稼働率 7月の米企業在庫
9/18 (水)	7月の機械受注統計(内閣府 8:50) 8月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 32,000億円 9/20発行			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 8月の米住宅着工件数 8月のユーロ圏消費者物価指数改定値 8月の英消費者物価指数
9/19 (木)	日銀金融政策決定会合(1日目14:00～) 4-6月期の資金循環統計速報(日銀 8:50) 7月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 46,000億円 9/24発行	流動性供給 6,500億円 9/20発行		英中銀MPC 8月の米中古住宅販売件数
9/20 (金)	日銀金融政策決定会合(2日目9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 8月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)				

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/16 (月)	敬老の日								
9/17 (火)	200	7,400	7,600	国債補完 CP買入	14,500 ▲ 100		14,400	22,000	TB3M発行▲46,000償還55,000 個人向け3・5・10Y発行▲3,000償還1,100
9/18 (水)	1,000	1,000	2,000	全店共通	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 6,000	
9/19 (木)	▲ 500	▲ 1,000	▲ 1,500				0	▲ 1,500	
9/20 (金)	▲ 500	49,000	48,500	社債買入		500	500	49,000	国債の大量償還・利払い TB1Y発行▲32,000償還33,000 5Y償還11,200、10Y償還14,000 20Y償還11,900 流動性供給▲6,500 エネルギー対策借入▲6,400期日6,200
週 間 合 計	200	56,400	56,600	—	6,400	500	6,900	63,500	

9/17は日銀予想、9/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、一部の先を除き、大方の先で特別当座預金制度の適用が終了するため、地銀業態の調達ニーズがやや減退する事が見込まれる。そのため、出会い水準についても若干低下する事が予想される。債券レボGC T/N物のレート水準は、金融政策決定会合での政策変更が行われない限りは大きな変動要因はなく、0.15～0.25%程度のレンジでの推移が予想される。短国市場は、18日(水)に1Y物、19日(木)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、期末に向けて期越え案件がどの程度膨らむのか注目される。

主要なイベントは、国内では19日(木)から20日(金)に日銀金融政策決定会合、20日(金)に8月の全国消費者物価指数(CPI)、海外では、17日(火)から18日(水)に米FOMC、18日に8月のユーロ圏消費者物価指数改定値、8月の英消費者物価指数、19日(木)に英中銀MPCなどが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入